

6. 論点⑥県立図書館との役割分担をどうするか

松江市内には市立図書館のほかに島根県立図書館があることから、市民からみたそれぞれの役割について意見を聞いた。

(1) 県立と市立の立地について

立地については、橋北に県立図書館が、橋南に市立図書館があることが、それぞれの図書館が担う役割に関わらず、近くに住む市民にとっては地域館として利用しやすいという意見が多くあった。

仮に中央館が移転するような場合は、引き続き橋南にも立地を望む声や、合併により市域が広がった現在、小さくてもより身近な場所に、誰もが行きやすい図書館を望む声もあった。

また、市民のなかには市立図書館の場所さえ知らない方もおられるということにつき、十分な広報がなされていないことが課題として挙げられた。図書館と利用者とのコミュニケーションは館外から始まっているという観点から、JR 松江駅に各図書館の案内表示を設置するという案が示された。

(2) 機能面の役割分担について

機能面での役割分担について話し合った。ここではまず、文部科学省の示した「図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成 24 年 12 月 19 日文部科学省告示第 172 号）」で言及される県立図書館と市立図書館の役割を確認し、そのうえで意見を聞いた。

その結果、市立図書館は、「松江らしさ」をテーマにしたり、松江市の情報に特化した専門性の向上を目指すこと、松江市の目指す「子育て環境日本一」にあわせたコンセプトを打ち出した特徴ある図書館づくりについての意見も出された。

公立図書館が橋南、橋北にあることは利用者にとってはメリットである。この利点を活かし、市立図書館においては、“市民に身近で使いやすい図書館”を前提とし、市民にわかりやすいコンセプトを打ち出すことが重要であると考えられる。